

国際観光コンベンションフォーラム 2015 in 金沢

全体総括

日本コンベンション研究会 幹事長

藤田 靖



皆様長時間大変お疲れ様でした。本来なら会長の石森先生が学術的見地からしっかりと総括をされるのですが、ご欠席ということで、そうした見地には欠き、また個人的な感覚もかなり入っていますが私の方からお話をさせていただきたいと思います。

講師の皆様は本当にお疲れ様でした。今回のテーマは、皆様のお手元の資料にあるように「インバウンド2000万人を目指して～日本MICE —その課題と展望 金沢からの提言」というものです。私を感じたのはグローバルにどう対応するか、その一言に尽きるのではないかと思います。対応とか対処といった後手、受け身の考え方のみならず、どう攻めるべきかというポジティブな考え方を、示唆に富んだ事例も含めてたくさん学ぶことが出来たかと思えます。

昨日は、特別講演ということで、多田社長様よりドラゴンルートについて、どう海外に発信していくのか、広域連携や、ファムをうまく活用したプロモーションなど様々な事を学ぶことが出来たと思えます。基調講演は浅井さんのビデオから、

MICE の意義や原点をもう一度再認識し、勉強できたのではないかと思います。第一分科会では西川様の進行と長谷川先生のお話で、歴史遺産が豊かな金沢では、それが様々な形でMICEに活かされていること、国宝級、世界遺産的な施設は種々の規制がありますが、難しい面は知恵と熱意で活かすことが可能と学びました。一方、歴史遺産がなくても、地域それぞれが持っている土壌的な風土、それと食のFoodといった地域文化・素材を、先方が持っているニーズ、要望とマッチングさせてどう活かすか、知恵の勝負であると学び、このフォーラムが地域都市で開催される意味合い、意義を再確認しました。第二分科会ではMICE業界のジャーナリストが第三者的立場から海外の事例やセールスプロモーションの舞台裏など、雑誌では書けなかった事例など、豊富な取材から得られた、数々の示唆に富む貴重な話題が提供され、太田座長をはじめ、佐藤さん、田中さんの構成で良いお話を聞くことが出来ました。また意見交換会では地元金沢の温かいおもてなしで皆様の交流が一層深まったと感じております。地元

の料理、お酒も含めて堪能されたと思います。二次会の参加も40名を超えました。この参加率の高さは、まあ一言で言えばMICEの議論は尽きないということを表しているかと思います。お酒の潤滑油もありますが、みなさんハートが熱くて、それぞれの地元や日本全体のことを思う気持ちが、深夜まで盛り上がった大きな要因ではないかと思います。日が変わりまして、本日のパネルディスカッションでは、廣江所長様の座長により、ポールさん、山崎理事、松田さんということで、非常に中味の濃いお話を頂き、多くの事例を学ぶことが出来たと思います。総括としては以上です。

ここで宣伝というわけではありませんが、この研究会が果たす役割をもう一度皆さんにお知らせしたいと思います。この研究会が果たす役割には三、四点ありますが、一つは、補助金をもらってやっているのではなく、皆様の参加の収入を柱にした手弁当の勉強会であり、緩やかなネットワークであるということです。形式にこだわらない組織ですから、学ぶテーマが自由で、抱えている課題をスピーディーに議論できます。そして皆様お分かりのとおり、構成メンバーは行政の立場もあれば、民間もあり、アカデミックもありということで、産官学が一堂に会した会議です。こと日本の今までの進め方という、どうしてもMICEは行政主導がメインだったと思うのですが、その中でこの緩やかなネットワークがこの勉強会を開催することに意義があるのだと思います。ですから今回行政だけで来られたなら次はぜひ民間を連れて来て欲しいですし、民間で来られたなら次はぜひ行政を引っ張って来るというように、地元の産官学のそれぞれの方面のキーパーソンをぜひ引率して来て下さい。二点目は異なる地域で持ち回りで開催することにより、それぞれの地域特性やベストプラクティスを学ぶことが出来るということだと思います。MICEの魅力は私が言うまでもなく、非日常空間において時と学ぶ内容を共有する志を持つ仲間たちとの議論の場です。MICEでよく言われる、「気付き」、「啓発」、「改革」、「アウェアネス」…「awareness」、「inspire」、「involve」と「innovate」、要は誰を巻き込みながらイノベートしていくかなどという話がMICEでは良くあるかと思うのですが、そういったよくMICE産業で使われるキーワードを本セミナーを通して地域に根付かせていく。MICEの理解を広めるために、それをどんどん違う地域でやっていくというところに、この研究会は価値があると思います。三つ目は研究会をきっかけに二次的な発展がそれぞれの地域で起きているということです。今回も金沢MICE推進協議会が地元の受け入れ組織として育ったり、再来年行われる新潟では新潟MICE研究協議会がもう立ち上がって活動していたり、行政主導ではありませんが沖縄や大阪でも産官学で連携した組織が動いております。そういった意味でこの組織は地域にMICEを広げていくため

のインキュベーション、孵化器の役割を果たしていると思います。現状、日本にはグローバルに対応する人材が育つ仕組みがあまり多くありません。そんな中で、この研究会が果たす役割はこれからも必要だと思います。

そして最後に研究会を支えるためには札幌国際プラザと我々NPOのコンベンション札幌ネットワークのお金がつぎ込まれています。その負担を軽くしたいという思いはもちろんです。一方、こうした場を通して、札幌に持ち帰り次のステップに活かせるような、お土産をたくさんもらっているということも、我々がそこにお金を支出させていただいている大きな理由です。また、長くなって恐縮ですが、我々研究会には五つの柱があって、人を育てること、地域コーディネートを強化すること、地域と全国が連携を図ること、それからグローバルな対応をすること、最後にサステナブルなコンベンション研究ということで、前々からそうした活動も強化してはいますが、先ほど松田さんやポールさんからあったように、これからはグリーンコンベンションなどサステナブルなものを、改めて学ぶのも良いのではと思いました。

私見も入り、総括になったのかわかりませんが、私の方からはこれで終わりにさせていただくと同時に、今回のこのフォーラムの設営に大変ご協力いただいた金沢の皆さんをご紹介させていただきたいと思います。金沢の皆さん前へお願いします。皆さん拍手をお願いします。

林 (シ・ピ・エル 代表取締役社長) ■ 皆さん金沢へようこそおいで下さいまして有難うございます。まだ午後からも金沢を楽しんで頂くプログラムを考えておりますので、お楽しみいただきたいということと、こちらのテーマにもありますけれど、「金沢からの提言」ということで、皆さんにとって最後まで有意義なフォーラムとなればと思います。今日は本当に皆さんお疲れ様でした。午後から帰られる方もいらっしゃると思いますし、十分でないところもあったと思いますが、また良い時に、またの機会に金沢にお越しいただければと思います。ありがとうございます。

藤田 ■ それでは次年度の開催地の岡山さんの方からPRをお願いします。

西山 (株式会社岡山コンベンションセンター 業務部部长) ■ 皆様こんにちは、岡山コンベンションセンター西山と申します。昨日の夜もお時間を頂きましたが、来年の3月、岡山の方でこの会議をやっていただけるということで、スタッフ一同お待ち申し上げております。会場の方は昨日も言いましたが、岡山駅から徒歩3分で来られます、傘もいりません、飛行機

の方もリムジンバスで30分くらいで来られますので、足の便がよ
ろしい場所にありますので、一人でも多くの方にお声掛けい
ただいて、100人、200人、400人…来ていただけるようご
協力いただければと思います。食べ物もおいしいところござ

います。冬ではありますが、精いっぱいのものをご用意させて
いただきますので、ぜひ足を運んでいただくようよろしくお願い
いたします。



金沢フォーラムの開催を支えた金沢メンバー